

生活支援体制整備事業に係るセミナー

～ＳＣと協議体の任務（役割）について～

公益財団法人さわやか福祉財団  
鶴山芳子

## 1. 1層2層の体制づくり

### ・協議体構成員の選出は「目指す地域像」を実現する幅広い分野から

助け合いのある「目指す地域像」を実現するためにＳＣと協議体を適切に選出することが大切。「目指す地域」はその地域により異なる部分もあり、それを実現するには幅広い分野の人が参加することが必要である。また、住民から信頼を受け、情熱を持った人が構成員にすることで、多様な考えを持つ地域住民をリードすることができる。その方法として「**大づかみ方式**」（別紙）や全戸周知方式などがある。

（質問：青森市、中泊町、おいらせ町、金山町、遠野市、大館市等）

### ・2層選出のポイント

2層のエリアは、助け合いの視点から区域を設定する。検討例として①生活圏が共通しているか（創出すべき助け合い活動の特徴が共通している 等）②助ける人が歩いて通えるかがポイント。選び方は上記の大づかみ方式で行うとよい。2層のエリアは小さいほうがきめ細かに働きかけもしやすいのでよい。

（質問：弘前市、花巻市、大館市等）

### ・協議体と既存会議（例えば地域ケア会議）との違い

協議体はＳＣを支えながら一緒に助け合いをつくり出すことが任務である。ＳＣと協議体は仕掛け人であり、例えば、町内会ごとワークショップを行うなど、**動くことがメインである**。そして、そのための情報共有や戦略を立てるなどのために集まる。

ケア会議は、例えば困難事例などを医師、看護師や福祉の専門職、ボランティアなどが集まって、個別支援について**集まって話しあうことがメイン**であり、両者の機能が違う。

（質問：十和田市ほか）

### ・協議体会議の内容(メンバー・開催頻度)

協議体会議が目的ではなく、どう動くか戦略を立て、戦略をもとに動きながらその内容や成果、課題などを共有するために集まる。つまり、動くことが主であり、集まることは従である。

戦略の内容は、ニーズと担い手をどう掘り起こすか、例えば、市民への啓発フォーラムはどう進めるか、自治会レベルの WS はどの地域から、どのような人たちに声をかけて進めていくか、特に参加できない人をどう引っ張り出すか、出されたニーズに対応して助け合い創出研修会を開催する計画とその周知はどうするか・・・など、戦略に基づき具体的な計画を話し合い、活動を展開し、集まって戦略をたてながら進めていく。開催頻度はその取り組みによる。

### ・SC、市町村との連携と役割分担

SC は旗振り役となり、協議体の力を借りながら、住民の声を聴きながら、助け合いを作り出し、ネットワークを広げ、助け合い地域づくりを推進する。

行政は **SC と協議体が動きやすいように後方支援**をする。一番の支援は資金であり、ほかに広報など周知の協力、研修会や交流会の支援、居場所や助け合い活動の拠点の支援（空き家、集会所活用支援）、自治会・民生委員・老人クラブ等キーになる人の紹介など。

### ・市町村関係部署の協働（好事例）

体制づくりのために 3 回程度、大づかみ方式の勉強会を行う時に関係部署の行政にも参加してもらい、新地域支援事業の意義や SC と協議体の役割などを一緒に学びあう「目指す地域像」の WS にも一緒に参加し、**住民を含む協議体候補者の声を聴きながら共通認識を持つ**ところから始めてみるのも一つの方法。

## 2. ニーズと担い手の掘り起こし

### ・「何をすれよいかわからない」⇒「答えは住民が持っている」

居場所や移動サービスなどすでに把握されているニーズ調査から活動をつくっていくことも大切であるが、より多くの住民参加を実現するためにも、SC と協議体が誕生したら WS を行い「住民が何を求めているか」また、「何ができるか」を聞きだすことが、助け合い活動を広げていくことにつながる。今がチャンス。

### ・住民の意識改革は行政が住民に任せることから。また、最善の方法はフォーラムやワ

## ークショップ(WS)

行政が住民を信じて任せることができるかが大切。その上で、住民に新地域支援事業の意義をわかりやすく伝え、一人一人が**自分事と感じ参加するために**、市(町)全体に働きかけるフォーラムや2層ごとのミニフォーラムは有効な手法(関心の高い人が集まる)。さらに、町内ごとまたは集落ごとに行うワークショップは「**やらされ感**」を払拭し、「**自分事**」と思う気持ちを引き出す有効な手法。特にWSは**地域愛を醸成**する。目の前で「困った」と言う人を見ると手を挙げて「やるよ」という人が現れるなど支え合う関係がはじまることもある。WSはニーズと担い手を一気に掘り起こせる方法である。(質問:青森市、六戸町、おいらせ町、平川市、東通村、秋田市、大館市、仙北市、酒田市等)

### ・人口規模が小さい地域の担い手不足の解決策は・・

WSやフォーラムに、いつも参加している住民だけでなく、**要支援者のように少し体が不自由である人達、主婦、若者たち、子どもたち**など、広く地域の人達に呼びかけて参加してもらうことで、関心ある人が広がる。(質問:蓬田村、田舎館村、金山町等)

## 3. 助け合いの創出(地域の課題解決)

### ・助け合いを立ち上げる方法

フォーラム、研修会、勉強会、WSなどに参加した人で「取り組みたい」という思いを持った人を中心に、仲間づくり活動の立ち上げをすすめる。その時に「何のためにするのか」という理念をしっかりと持つことが大切である。

居場所は「はじめたい」人が数人いれば、取り組み始めることができる活動だが、生活支援の組織づくりは事業計画を立てながら運営体制も考え立ち上げる。(別紙:団体設立・運営のノウハウをご参照ください)

(質問:平川市等)

### ・在宅での家事支援など生活支援は研修を行いながら地域で支えられるようにする

一人暮らしの人などがますます増えていく中で、在宅での生活支援などを行う有償ボランティアの組織づくりは今後ニーズが高まっていくと思われる。これまでも、在宅に入るにあたっての守秘義務をしっかりと守るなど、研修を重ね、会員制の助け合い組織をつくっていくことでそのニーズに答えている。

フォーラムやWSなどを開催しながら、お互いに「助けて」と言いやすい地域づくりに向けての意識啓発も広げていくことも重要である。

(質問:田子町等)

# 新事業要点確認

公益財団法人さわやか福祉財団会長  
堀田 力

## 1. 生活支援コーディネーター（SC）の任務

SCの任務は、支え合い・助け合いを広めること（創出、拡大とネットワーク化）にある。

— 新地域支援事業は、すべての要支援者（チェックリスト該当者を含む）の生活支援に対応するものであるから、新事業の内容の解説はA型から始まるが、A型は助け合いではない。したがって、A型事業（C型も同じ）は、SCの対象ではない。

## 2. SCの役割

コーディネーターとは、辞書では「調整役」とされている。しかし、**SCの役割は、創り出す機能が主**であって、調整は助け合い活動全体を拡大、適正化するために行う従たる役割に過ぎない。ガイドラインがSCの後にカッコで書いている「地域支え合い推進員」というのが、実体をよりよく表わす言葉である。言葉にまどわされないことが肝要。

## 3. 協議体構成員の役割

協議体構成員に期待される役割は、協議に参加することだけでなく、**SCを補佐してそれぞれの分野で助け合い活動を創出し、拡大すること**である。後者の役割を自ら果たすことが強く求められるのであって、このことの重要性を忘れてはならない。

説明が「協議体は協議する機関である」ことで終わってしまいがちなので留意を要する。

## 4. SC及び協議体の学ぶべきこと

SC及び協議体の任務でもっとも難しく努力を必要とするのは、ほとんどの地域の場合、**地縁関係での助け合いを広め、深めること**である。その

作業はなかなかの力作業であって、NPO活動と違い、ノウハウも乏しい。しかしその学習、実践なくしてその任務が果たせることはあり得ないことを確認しておきたい。

## 5. 社協及び地域包括支援センターの役割

社協の関係者がSCに選ばれる実務が広がっているが、SCは、地域の信頼を得る人物を実質的に選ぶべきである（社協関係者が実質を備えるときは適切であるが、肩書きで選ぶべきではない）。

大切なことは、**社協及び包括が、連携をして事務局の役割を果たすこと**である。もっともよく情報を有するのが社協及び包括だからである。

事務局機能の重要性についての認識が薄いように感じる。

## 6. 行政の役割

役割は各種後方支援であるが、忘れられがちなのが、**SCの行政に対する提言をしっかりと実現すること**である。

SCの行政に対する提言は、住民サイドに発するものだから、行政には厳しいものになりがちだと思われる。

その際第1層SCは、首長と対等の立場で、提言した事項に対する協力を求めることになろう。SCの行政における位置付けは、実務では低きに失する傾向になっている。

## 7. 第3層コーディネーターの理解

中央研修では、明らかに第3層の業務に属するような事項が講義の一角を占めている。それ自体は、高齢者支援の現場実務の理解も必要と思われるので不当ではないにせよ、このことにより、第1層、第2層のSCの任務と第3層のSCのそれとが混同される弊害が生じている。

**第1層、第2層のSCは、助け合い活動を直接支援・調整するものではない**ことを確認しておきたい。